

これから10年で鶴岡市のまちづくりに重視したい着眼点に対する社会基盤専門委員会での協議・意見

○挑戦でき、人をひきつけ投資を呼び込める環境の整備

| 現状・課題  | 施策の方向   |
|--|---|
| 本市は住宅づくりに欠かせない優れた技能を有する大工や左官などの建築関連技能者を輩出してきたが、経営環境の厳しさから後継者を育てることも困難な状況にあることなどから、技能者の高齢化、技能の伝承が課題となっている | 地域住宅の活性化を目指す地元の住宅関連産業界により組織された、つるおか住宅活性化ネットワークでは、鶴岡産木材を活用し市内の設計者、施工者による地域性を活かした「つるおか住宅」が普及促進するよう技能の伝承と共に技術職人の育成を図るため、職業能力開発促進法に基づいた「国家検定制度」である技能検定の受験費用の補助（一人上限額1万円）をおこなっている。<br>また、山形県住宅リフォーム総合支援事業の拡充として、大工育成工務店が施工した場合に補助金の限度額の嵩上げを継続して要望しながら、技能者の高齢化や技能の伝承への対応を引き続き行っていきたい。 |

○人づくりによる人材の確保

| 現状・課題            | 施策の方向  |
|------------------|--|
| まちづくりの主役となる人材の育成 | まちづくりに関する専門人材の育成と公民連携の推進に向けて、まちづくりセンター（仮称）の整備を図り、若年層の活動の場づくりを推進する。 |

○交流人口を増やす施策の実施

| 現状・課題                  | 施策の方向  |
|------------------------|--|
| 街並景観保全に向けた意識啓蒙と修景整備の推進 | 歴史的風致維持向上計画に基づき、手向地域の歴史的風致の維持向上に向けた調査・検討を実施し、地域との協議も踏まえながら環境整備を図る。 |

|   |   |
|---|---|
| <p>文化的・歴史的価値を有する六十里越街道だが、全国的には知名度が低く集客力に課題を抱えている。</p>   | <p>六十里越街道の整備と活用<br/>街道の整備やトレッキング等イベントの開催、体験プログラムの開発により六十里越街道の情報発信を行い、誘客を進める。</p>  |
| <p>高速交通ネットワークの整備促進</p>  | <p>庄内開発協議会等の広域団体の活動を通し、日沿道県境区間整備、羽越本線高速化・安定輸送、庄内空港利便性向上、羽越新幹線の早期実現を図るため、関係機関に対する要望活動を強化・継続する。</p>   |
| <p>温海地域 I C 周辺の整備促進</p>   | <p>日本海沿岸東北自動車道新潟県境区間の完成後を見据え、温海地域の I C 周辺の土地利用などについて調査、検討し、休憩施設の整備を進める。</p>   |
| <p>主要幹線道路等の整備促進</p>   | <p>国道 7 号、国道 112 号、国道 345 号の交通安全・防災対策の強化、狭あい区間の整備促進や主要地方道、一般県道の未改良区間の整備促進に向け関係機関へ要望するとともに、外環状道路、都市内幹線道路の整備を促進する。<br/>更には、新庄酒田道路の完成による広域ネットワーク化を図るため、鶴岡藤島間道路の整備を関係機関に要望する。</p>   |
| <p>都市農村交流の推進と農業・自然体験フィールドの充実</p> <p>市南部広域観光圏の拠点づくりと基盤整備の促進</p>  | <p>首都圏の小学校修学旅行受入や大学生の農業体験受け入れ、滞在型観光客の誘致等、都市交流人口の拡大を図るため、通年自然体験型のたらのきだ이스キー場の改良、農業経営の安定につながる観光果樹園の拡張や農家民宿、カフェ等の集積を促進するため、既存施設の基盤整備や新規賑わい施設の開設支援を推進する。<br/>日本遺産「甞りの旅」、「サムライゆかりのシルク」の羽黒山、湯殿山の中継機能として、観光客への魅力の付加価値を上げるため、果樹と歴史文化を基軸とした、櫛引、市街地南部、朝日地区の市域の南部広域観光拠点の整備と広域幹線交通網の整備を促進する。</p> |
| <p>藤島地域を縦断する国道 345 号は、市街地外環状北部等と接続していないため、「加茂水族館」などの観光客は、藤島地域や最上方面とのネットワークに恵まれていない。<br/>藤島地域は水田農業技術の中心地であり、豊かな農村文化を代表する美しい獅子踊りに加え、東田川文化記念館、藤島城址を含む歴史公園エリアを地域活性化の新たな拠点として取り組んでいる</p> | <p>鶴岡藤島間道路（藤島バイパス）の建設促進を図ることにより、日本海沿岸東北自動車道、東北横断自動車道酒田線と最上地方とを最短で結ぶ地域高規格道路新庄酒田道路の連絡により鶴岡市と最上地方とのネットワーク形成、人や物の流れの効率化や観光・雇用創出などにより地域活性化につなげる。</p>   |

## ○若者・子育て世代、高齢者、障害者に配慮し、誰もが活躍できる地域社会の構築

| 現状・課題  | 施策の方向  |
|--|--|
| <p>快適で安全安心な住環境整備の事業として「地域住宅リフォーム助成事業」を実施しており、地元工務店等によるリフォームの際に、耐震補強工事、県産木材の利用、バリアフリー対応、省エネ工事を行う際、工事費の一定額を助成することで、既存住宅ストックの活用及び地域住宅産業の活性化を図っている。また、本市の喫緊の課題である人口減少対策について、人口減少・少子化対策の取組みの一環として、婚姻や出産に伴いリフォーム工事を行う場合のほか、市外からの移住定住者を対象に補助金の上乗せを行っている</p> | <p>本市の地域住宅リフォーム助成事業は、山形県の住宅リフォーム総合支援事業を活用したものとなっており、県が本事業を廃止した場合、市独自の支援制度の継続は財政的に困難な状態となり、地域の住宅関連産業・地域経済の活性化にも大きく影響するものと懸念されることから、県事業の継続を要望しながら、引き続き快適で安全安心な住環境整備を図っていきたい。</p> |
| <p>公営住宅の有効活用において、近年、上層階の住宅が募集しても応募がない状況がある。一方で、1階への入居を希望する高齢者単身世帯が増加傾向にあり、高齢同志での抽選となってしまうことが多々ある</p>   | <p>新たな住宅セーフティネットを構築するため、低所得者、高齢者、障害者の入居を拒まない民間賃貸住宅を登録する制度が発足しており、市内空き家等の登録住宅への転用などを図れるよう、改修補助金等により住宅セーフティネットを充実していく。</p>   |
| <p>市営住宅の約46%が昭和40、50年代に建設された建築物のため、老朽化が進んでいる</p>   | <p>住宅困窮者向けに住宅を供給する市営住宅の長寿命化を図るため、予防保全的な工事を行っていく。</p>   |
| <p>少子高齢化・転居・転出などにより人口減少に歯止めが掛からず、集落自治機能が低下している</p>   | <p>集落対策の推進 集落対策を検討するため集落支援員を配置するとともに、「小さな拠点整備」等の取組みを通して、高齢者も含め住民が地域に安心して住み続けることができる環境整備を支援していく</p>   |
| <p>建設業における子育て支援策の一環として、県が実施している「山形いきいき子育て応援企業登録・認定制度」の認定を受けた建設業者に対し「鶴岡市建設工事指名競争入札参加者の格付に関する規程」に基づき、等級別格付の算定に当たり、評価の加点を行っている。今年度、格付更新を行い、格付対象業者の認定者数を確認したところ、175社中12社(6.9%)であった。2年前より3社増加しているものの、業者によっては敢えて評価の加点を望まない者もいることから、大幅な伸びは期待できない</p>        | <p>この施策は県の施策と連携したものであり、市独自の施策ではないが、認定を受ける企業へのインセンティブの一つとして継続していく。</p>  |

## ○内的豊かさを重視し豊かな自然と歴史、文化を伝承

| 現状・課題   | 施策の方向   |
|---|---|
| <p>【再掲】 文化的・歴史的価値を有する六十里越街道や朝日連峰等、多種多様な自然資源や山岳信仰等の歴史・文化資産が地域にあるものの、その魅力を観光客はもとより地域に対しても十分に情報発信しきれていない</p> | <p>【再掲】・六十里越街道の整備と活用 街道の整備やトレッキング等イベントの開催、体験プログラムの開発により、六十里越街道の情報発信を行い、誘客を進める。</p> <p>【再掲】自然を活用した交流人口の拡大 大鳥池での内水面振興策や登山道の整備を行い、釣り客、登山客等の誘客を進める。</p> |
| <p>【再掲】 街並景観保全に向けた意識啓蒙と修景整備の推進</p>  | <p>【再掲】 歴史的風致維持向上計画に基づき、手向地域の歴史的風致の維持向上に向けた調査・検討を実施し、地域との協議も踏まえながら環境整備を図る。</p>  |

## ○「循環」をキーワードとして重視

| 現状・課題  | 施策の方向  |
|--|--|
| <p>下水処理エネルギーの有効活用</p> <p>下水道は、未利用エネルギーが豊富にあり、これらの積極的な活用を促進する必要がある</p>  | <p>汚水処理により発生する消化ガスや汚泥、熱エネルギーなど下水道のもつポテンシャルを最大限に活用し循環型社会の形成を促進する。</p>   |
| <p>藤島地域を横断する国道345号は市街地外環状北部と接続していないため、集客数を誇る「加茂水族館」などからの観光客を藤島地域まで呼び込むことが難しい</p> <p>藤島地域は他地域に比べ観光スポットのインパクトに欠けるが、これまでの「米と獅子の里」に加えて、東田川文化記念館を含む歴史公園エリアを地域活性化の新たな拠点と位置付けしている</p> | <p>鶴岡藤島間道路（藤島バイパス）の建設促進を図ることにより、日本海沿岸東北自動車道、東北横断自動車道酒田線と最上地方とを最短で結ぶ地域高規格道路新庄酒田道路の連絡により鶴岡市と最上地方とのネットワーク形成、人や物の流れの効率化や観光・雇用創出など地域活性化につなげる。</p> |

## ○対応から本格的国際都市へのシフト

| 現状・課題 | 施策の方向 |
|-------|-------|
|       |       |

## ○コンパクト＋ネットワークによる自立分散型社会の実現

| 現状・課題             | 施策の方向   |
|-------------------|---|
| 空き家の適正管理と有効活用     | 空き家の実態調査に基づき、空き家等対策計画の策定を検討するとともに、老朽化などにより適正管理や解体を求めていく必要のある空き家について、法令等に基づく適切な助言・指導、勧告などを行います。また、寄附を受けた空き家について市が解体、整地し、若者世帯や子育て世帯、市外からの移住希望者に住宅用地として供給することにより、まちなか居住を促進する。  |
| 適切な土地利用と快適な市街地の形成 | 都市計画マスタープラン及び立地適正化計画をまとめた都市再興基本計画により、都市機能と居住誘導区域を設定することで、コンパクトで持続可能な都市構造を構築するとともに、人口流出抑制のため市街化区域内大規模未利用地である茅原地区の土地区画整理事業の円滑な事業進捗を支援する。<br>米価等の変化により急激に離農者が増加し、地域社会を維持する土地利用が求められている。藤島地域の市街化区域内では開発可能な区域が複数あり、藤島南工業団地の拡大とふじの花東流通団地の開発を支援する。 |
| 賑わいのある中心市街地の形成    | 駅前機能の特性を生かし、マリカ東館への食文化情報発信拠点の整備を促進するとともに、*鶴岡シビックコア地区における国の第2合同庁舎の整備に向けた関係機関との協議、調整を進める。<br>また、まちなか居住を柱とした駅前地区、山王地区、銀座地区、川端地区、藤  |

|                      |  |
|----------------------|--|
| <p>公民連携による活性化の推進</p> | <p>島地区の賑わい空間の創出のための民間開発事業を支援する。<br/>公民連携によるまちなか居住と区画再編を促進することで、中心市街地の活性化を推進する。</p> |
|----------------------|--|

## ○オンリーワンを目指すプロジェクトの実施

| 現状・課題                | 施策の方向  |
|----------------------|--|
| <p>個性豊かなまちづくりの推進</p> | <p>歴史的風致維持向上計画に基づき、本市の歴史的特性を生かしたまちづくりを進める。</p> |

## ○安心安全な社会基盤の整備

| 現状・課題  | 施策の方向  |
|--|--|
| <p>公共施設等の老朽化が大きな課題となっており、人口減少による施設利用者の減少、ニーズの変化を踏まえ、平成 28 年度策定の「公共施設等総合管理計画」に基づき中長期的な視点を持ち更新・統廃合・長寿命化などを計画的に行う必要がある</p>                                    | <p>「公共施設等総合管理計画」の計画期間である 30 年間で前期・中期・後期の各 10 年間で見直しを行い進捗状況を管理する。また個別施設計画に基づき更新・統廃合・長寿命化などを計画的に行い財政負担の平準化・軽減を図るとともに最適な配置を推進する。</p>  |
| <p>水道事業の維持経営<br/>人口減少等により水需要が減少し、水道事業の主な収入である水道料金収入が減少している<br/>一方で既存施設の経年化が進み、更新需要や施設の耐震費用の増大が見込まれるため、経営の持続が困難になると推測される</p>                                | <p>平成 29 年度より実施している「鶴岡市上下水道事業経営効率化計画」に基づき、経費の縮減等の取り組みを進める。平成 29 年 4 月より料金収納等包括的業務委託を実施している。その他、県企業局と広域水道用水受水団体等により、庄内地域の水道事業の広域化に向けた取り組みを進める。</p>                        |
| <p>水道老朽管路の更新、水道管路の耐震化の推進<br/>耐用年数の 40 年を超える老朽化した配水管路については漏水や赤水等の水質被害の原因となっており、昭和 40 年代に整備された配水管が多いことから、今後急増する状況にある。<br/>また、東日本大震災等の近年発生している大規模な地震災害では水</p> | <p>老朽化配水管については、今後急増する状況にあることから、継続的かつ計画的な更新を行うこととし、更新に際しては重要性、緊急性を考慮する。<br/>管路の耐震化については平成 25 年度に策定した「鶴岡市水道管路耐震化計画」に基づき、水源や配水池から災害拠点病院である庄内病院や災害時の避難拠点施設を結ぶ管路の耐震化を進める。</p> |

|  |  |
|--|--|
| <p>道管路が甚大な被害を受けたことにより、長期間の減断水が発生し、住民生活へ多大な影響を及ぼしていることから地震災害に備え、施設の耐震化に努める必要がある。</p>  |  |
| <p>下水道事業の持続経営<br/>人口減少による下水道料金収入の減少、高度成長期に整備された下水道施設の老朽化など下水道事業経営の持続が困難になると推測される。</p>  | <p>アセットマネジメントに取り組み、効率的な施設の維持管理をめざすとともに、デザインビルド方式などを取り入れ効率的な発注を行なうなど経営の効率化を進める。</p>                                   |
| <p>下水道整備の推進<br/>下水道管渠については、鶴岡地域に未普及地域が残っており、早期に整備する必要がある。また、整備後 40 年を超える管渠の老朽化や劣化が進み更新する必要がある。<br/>処理施設についても、機器設備を中心に老朽化が進み、不具合の発生が顕著になってきている。</p> | <p>「鶴岡市汚水処理施設整備構想」で掲げる 10 年概成を目指して、下水道の整備を進めるとともに浄化センター施設等の改築などを進める。</p>   |
| <p>防災基盤の強化と地域防災力の確保</p>  | <p>国・県による河川整備・改修や砂防施設整備、急傾斜地崩壊・地すべり防止対策事業について、促進活動に取り組む。</p>   |
| <p>雨水対策の推進</p>   | <p>浸水対策の推進<br/>市街地の冠水被害を防止する排水施設を整備する。</p>   |
| <p>河川及び砂防施設の整備</p>   | <p>防災基盤の強化と地域防災力の確保<br/>国・県による河川整備・改修や砂防施設整備、急傾斜地崩壊・地すべり防止対策事業について、促進活動に取り組む。</p>                                    |
| <p>土木構造物長寿命化</p>   | <p>土木構造物の長寿命化の推進<br/>※橋梁長寿命化修繕計画に基づいた橋梁の点検、補修、架け替えを行うとともに、トンネル点検に基づく修繕計画や老朽化した道路に関する長寿命化計画を策定するなど、土木構造物の長寿命化を図る。</p> |

|           |  |
|-----------|--|
| 公共施設の維持管理 | <p>公共施設等総合管理計画の推進</p> <p>公共施設等総合管理計画に基づき、長期的な視点を持って公共施設の更新・統廃合・長寿命化などを計画的に行い、財政負担の軽減を図るとともに最適な配置を実現する。</p>               |
| 道路除雪体制の整備 | <p>除雪体制の整備</p> <p>除雪ドーザなどの除雪機械や防雪柵等を計画的に整備・更新・増強しながら、防雪・除雪対策を的確に進めるとともに、雪寄せ場の試行などによる共助の仕組みづくりを検討し、将来的に安定した除雪体制を維持する。</p> |